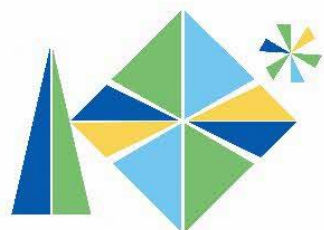


小中一貫教育について



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

令和6年12月19日(木)
美幌町民会館 3階 中ホール
北海道教育庁オホーツク教育局
義務教育指導監 佐藤 大

1 なぜ小中一貫教育なのか？

2 義務教育学校と小中一貫校

3 今後の展望・未来の可能性

なぜ小中一貫教育なのか？

今、なぜ9年間の学びの連続性が重要なのか

- 知識偏重からの脱却



知識を詰め込む教育から、知識・技能を活用して出会ったことがない課題に立ち向かい解決していく資質・能力が求められている。

- これから求められる資質・能力育成のため



国際社会やIT社会に対応するため、コミュニケーション力や仲間とともに新たな課題を解決する能力が重要視されています。一貫教育の中でこれらの力を段階的に育成することが必要です。

なぜ小中一貫教育なのか？

オホーツク管内の少子化の状況

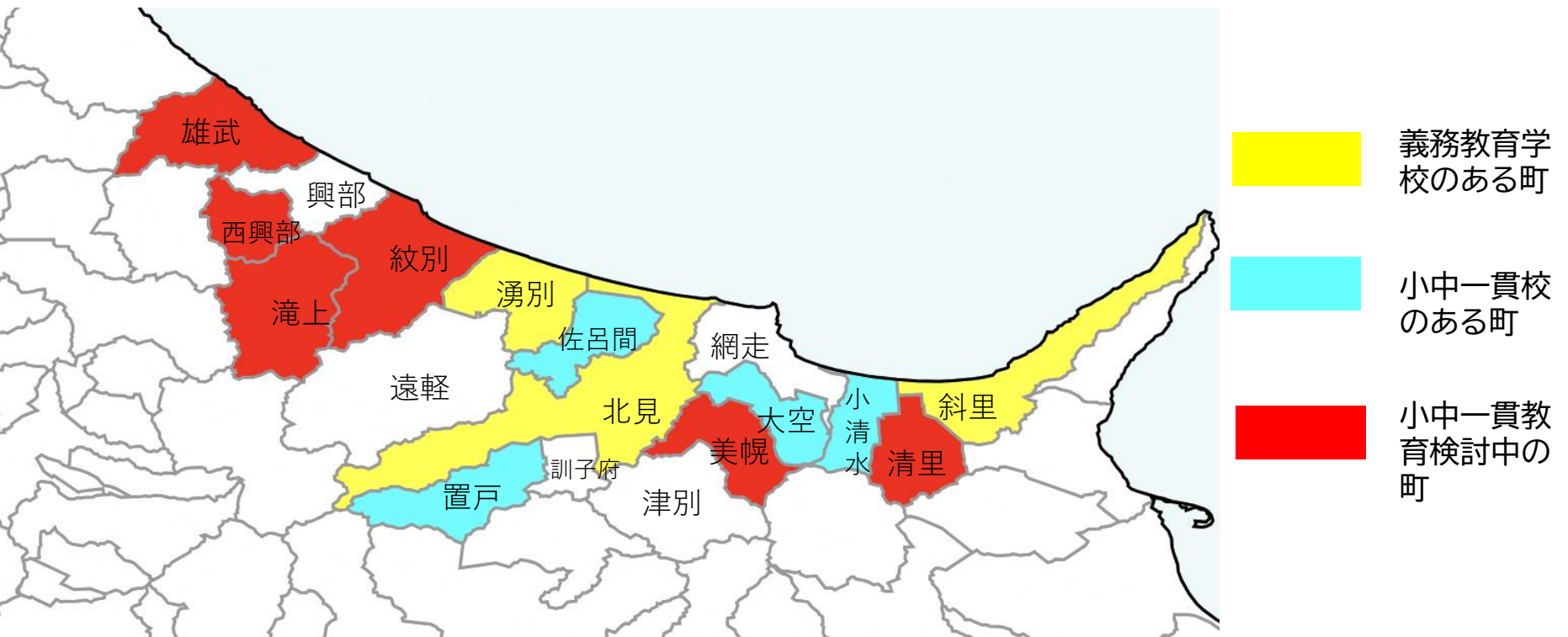
少子化の影響がオホーツク管内では想像以上のスピードで進んでいる

美幌町のR5・6年度の出生数は？



なぜ小中一貫教育なのか？

オホーツク管内の小中一貫教育の状況



なぜ小中一貫教育なのか？

○全道の義務教育学校数（令和6年度現在）

公立	国立	合計
28	1	29

○オホーツク管内の義務教育学校（4校）

- ・知床ウトロ学校（H28）
- ・芭露学園（H30）
- ・おんねゆ学園(R2)
- ・ゆうべつ学園(R5)

- ・上湧別学園開校（令和7年4月）

なぜ小中一貫教育なのか？

今日の講演で

小中一貫教育にはどのような特徴があり、
子どもたちにどのような成果が期待できるのか？

義務教育学校と小中一貫校

- ① 義務教育9年間を連続したカリキュラムとして捉える
- ② 児童生徒・学校・地域の実情を踏まえた具体的な取組の質を高める

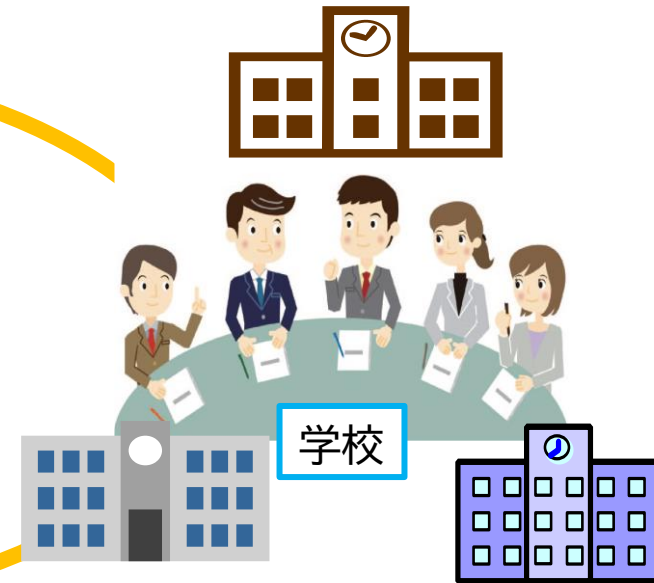
9年間で育成を目指す子どもの姿



地域



子どもが主役



学校

大切にしたいこと

導入

≠

目的

行政

役割の明確化



義務教育学校と小中一貫校

1 現状把握と課題の特定



行政

〔①教育委員会(行政)の取組〕

教育長(教育委員会)のリーダーシップのもと、地域の子どもたちにとって
小中一貫教育の導入がもたらす意義を検討

- 保護者や地域住民との話し合いを通じて理解を求める
- 各学校長や教職員との意識の共有
→説明や協議等の実施

〈推進計画の作成〉

- ・なぜ(我が地域で)小中一貫教育を行うのか
- ・(我が地域の)小中一貫教育定義、目的・目標
- ・(我が地域の)小中一貫教育の基本方針、目指す子ども像、教職員像
- ・(我が地域の)施設形態や学校の種類

義務教育学校と小中一貫校

1 現状把握と課題の特定



地域

〔地域とともにある学校づくり〕

小中一貫教育の導入を契機として、地域住民や保護者との議論を積み上げ、協力体制を構築

- 地域住民等の声を丁寧に聴き、ビジョンや目標を設定・共有
- コミュニティ・スクール(学校運営協議会)での熟議

〈主な議題〉

- ・地域の思いや願い(挨拶のできる子、地域を大切に思う子、進んで学ぶ子…)
- ・社会教育・生涯学習との関連

義務教育学校と小中一貫校

1 現状把握と課題の特定

〔教職員間の共通認識の醸成〕



校長のリーダーシップのもと、小学校の教職員と中学校の教職員間の
共通認識を醸成する議論の場の設定

- 小中一貫教育の意義
- 目的・内容・計画(短期・長期)

→小中合同研修会の実施(全体会・部会)、コーディネーターの配置等

〈主な議題〉

- ・地域の子どもたちのよいところや伸ばしたいところ
 - ・小中一貫教育の導入により重点的に取り組みたいこと
 - ・各種データを効果的に活用し、それぞれの学校の課題から共通の課題を可視化
- ※ワークショップ等を通じた話し合い

2 義務教育9年間で目指す子ども像の設定

〔目指す子ども像の設定〕

- 各学校のビジョン→地域のビジョン
- 児童生徒の現状や課題（各種データ等の活用）
- 保護者や地域住民の願い

義務教育段階
を終える段階
で身に付けて
おくべき力



義務教育学校と小中一貫校

小中連携教育

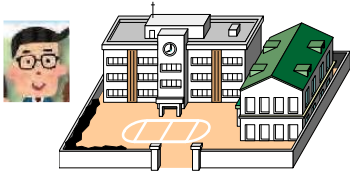
小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて
小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

小中一貫教育

小中連携教育のうち、**小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を検討し系統的な教育を目指す教育**

①義務教育学校

- ・ 新たな学校種
(一つの学校)
一人の校長、
一つの教職員組織

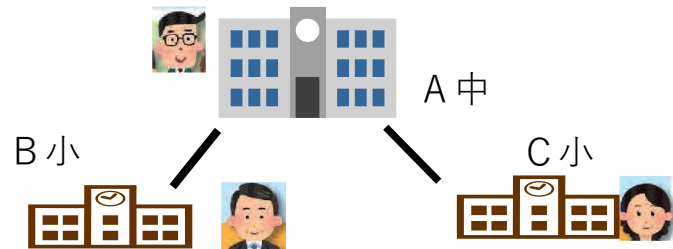


市町村の条例の改正

小中一貫型小学校・中学校

組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
→それぞれの学校に校長、教職員組織

②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)

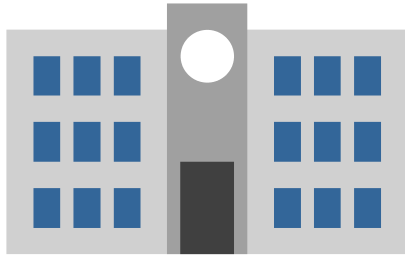


一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

市町村教育委員会規則等に明記

義務教育学校と小中一貫校

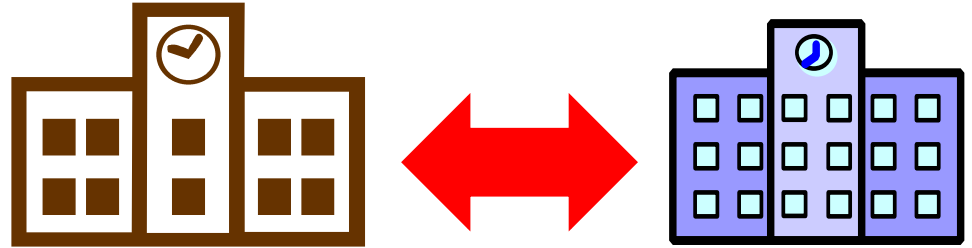
義務教育学校



1人の校長

- 一人の校長の下、1つの教職員組織
- 校長1名分を一般の先生へ

小中一貫校



小学校・中学校それぞれ1人の校長

- 二人の校長の下、2つの教職員組織

義務教育学校と小中一貫校

学年の区分 小中9年間の義務教育

4－3－2

5－4

6－3



重点1

9年間の連続した教育課程

重点2

教科担任制
(乗り入れ授業)の実施

重点3

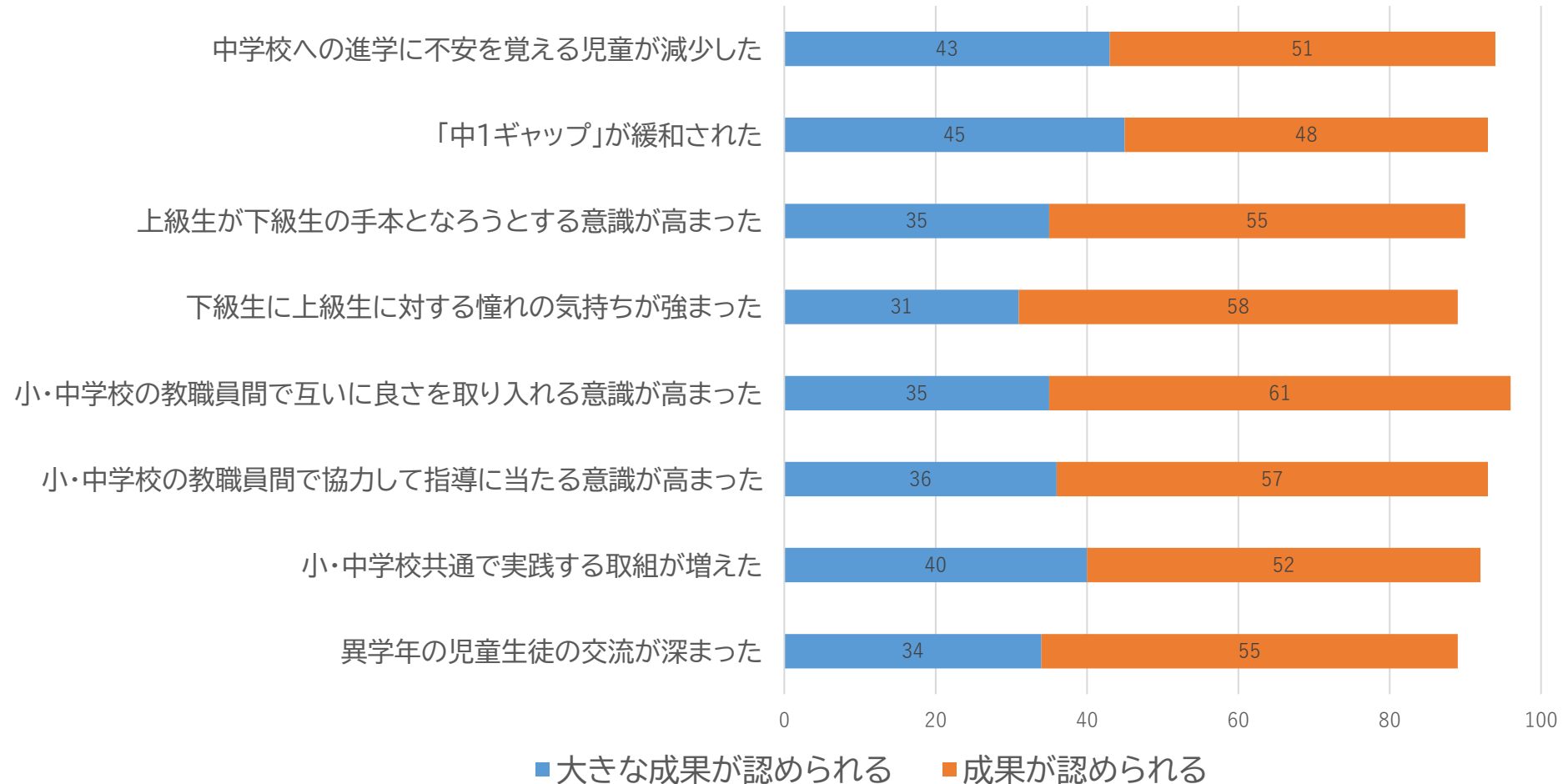
6歳から15歳までの異年齢の交流

重点4

発達段階に応じたきめ細かい指導

義務教育学校と小中一貫校

小中一貫教育の成果



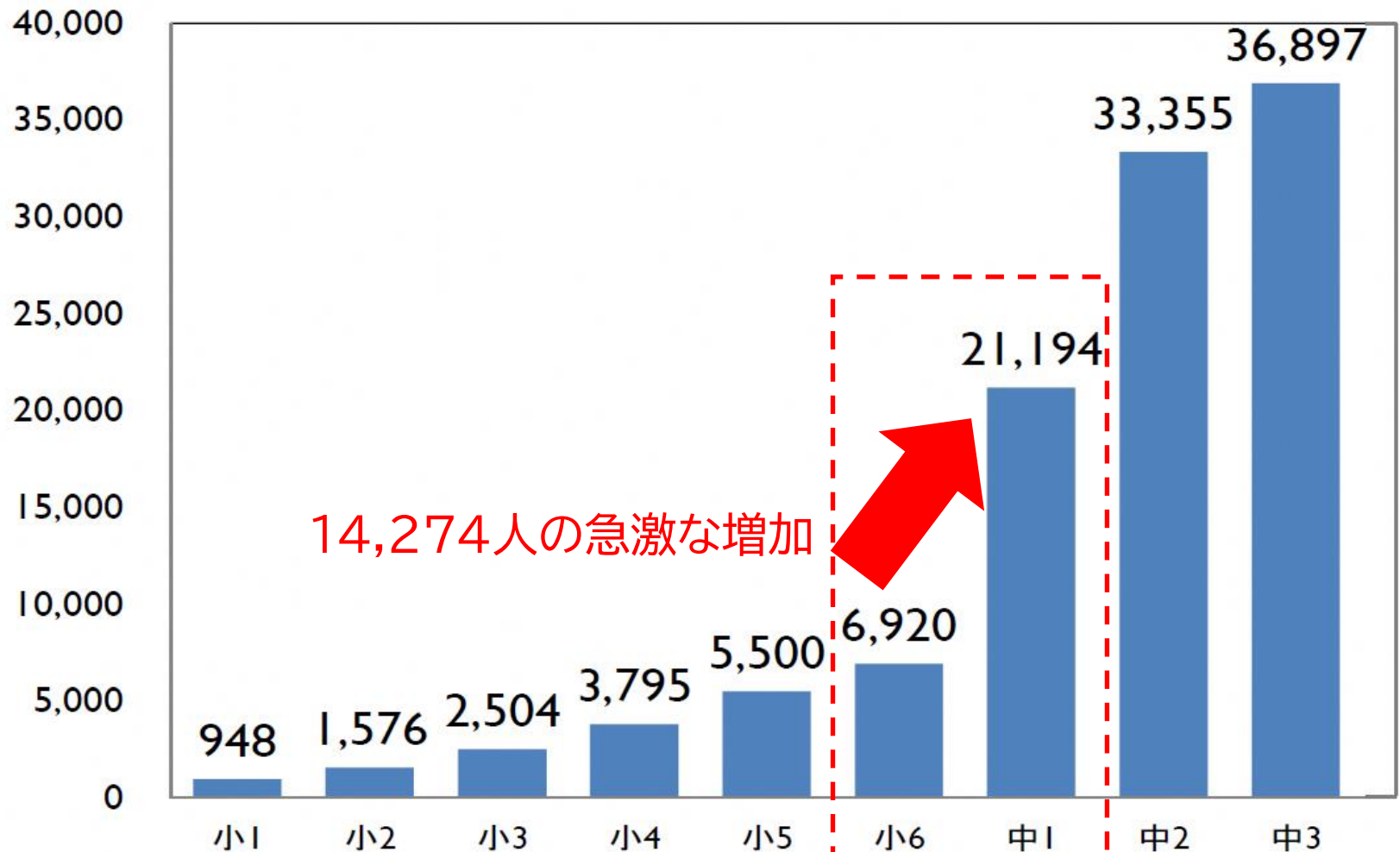
文部科学省初等中等教育局

『小中一貫教育等についての実態調査の結果』より一部引用

義務教育学校と小中一貫校

学年別不登校児童生徒数

(人)



文部科学省初等中等教育局

『小中一貫教育等についての実態調査の結果』より一部引用

義務教育学校と小中一貫校

小中一貫教育による不登校への対応の成果

鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 特別号 6号 (2016)

Table 3 中学校生徒の不登校出現率(生徒数比百分率)

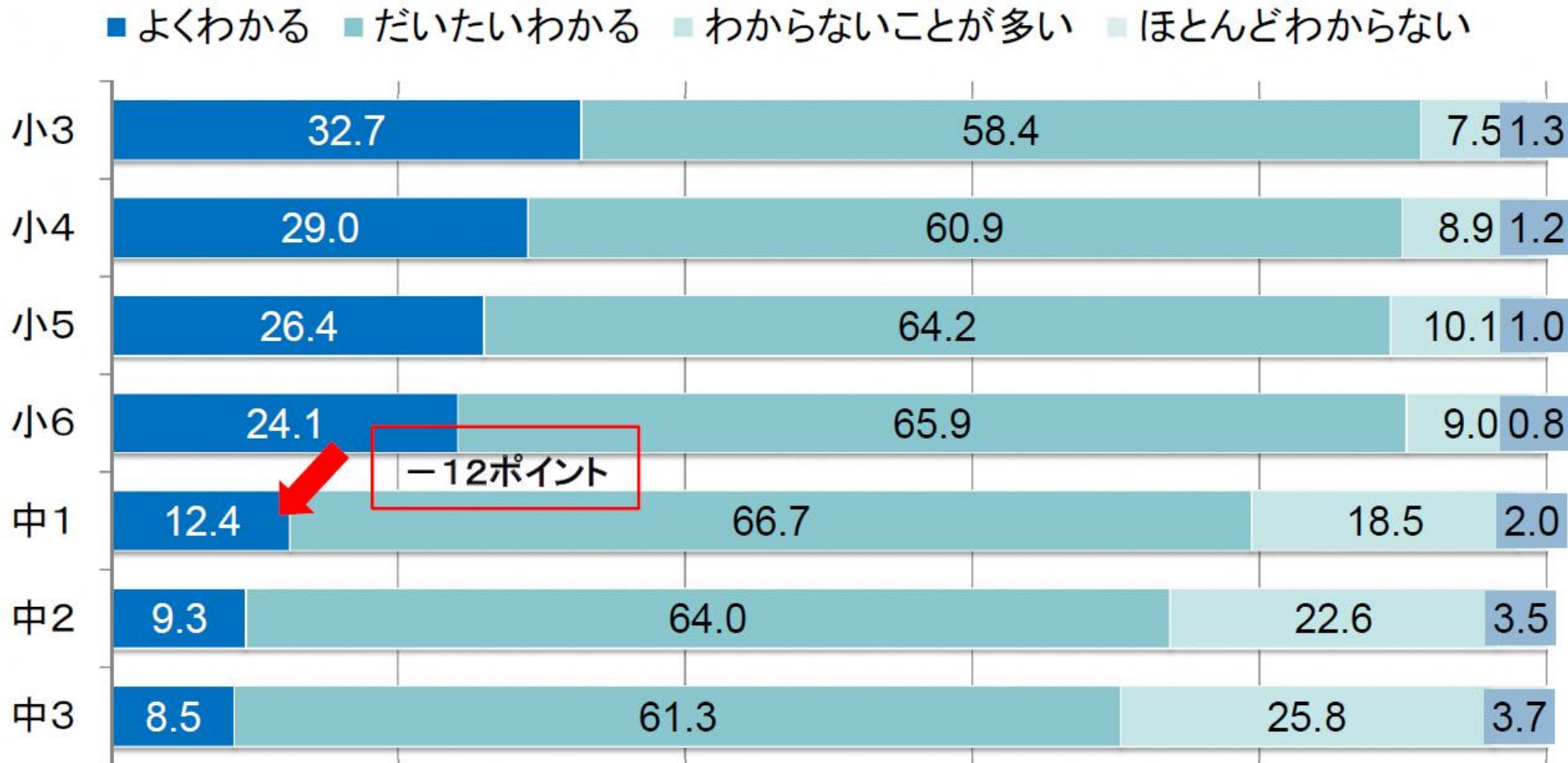
	H22	H23	H24	H25	H26
全国	2.73	2.64	2.56	2.69	2.89
鹿児島県	2.68	2.68	2.65	2.85	2.89
薩摩川内市	1.90	1.89	1.44	1.57	1.56

- Table 3 の通り、不登校生徒が減少している。特に中1生徒の不登校数は少なく抑えられている。

大坪 治彦・奥山 茂樹 (2016) 『小中一貫教育における効果的な教育課程編制のあり方ー義務教育学校制度創設との関係と鹿児島県における課題ー』より引用

義務教育学校と小中一貫校

学校の授業がどのくらいわかりますか



文部科学省初等中等教育局

『小中一貫教育等についての実態調査の結果』より一部引用

メリット

- ・小・中学校の9年間を見通した指導
- ・中1ギャップの解消(不登校の減少)
- ・異学年交流
- ・生徒指導の連携
- ・上級生の下級生に対する思いやり
- ・下級生の上級生に対する憧れ

デメリット

- ・6年生のリーダーシップを発揮する場
- ・先生方の小・中学校の文化の壁の存在
- ・地域・保護者の小・中学校の意識の存在
- ・特別支援学級の連携

ぺちやくちゃタイム

もし学校が義務教育学校になったら・・・

(例)

- ・制服どうなるの？
- ・小学6年生の卒業式は？

今後の展望・未来の可能性

ゆうべつ学園での取組より(義務教育学校の理念)

「多様な人々と協働して学び続ける力」を育成するための総合的なカリキュラム・デザイン

「多様な人々と協働して学び続ける力」の柱となる資質・能力



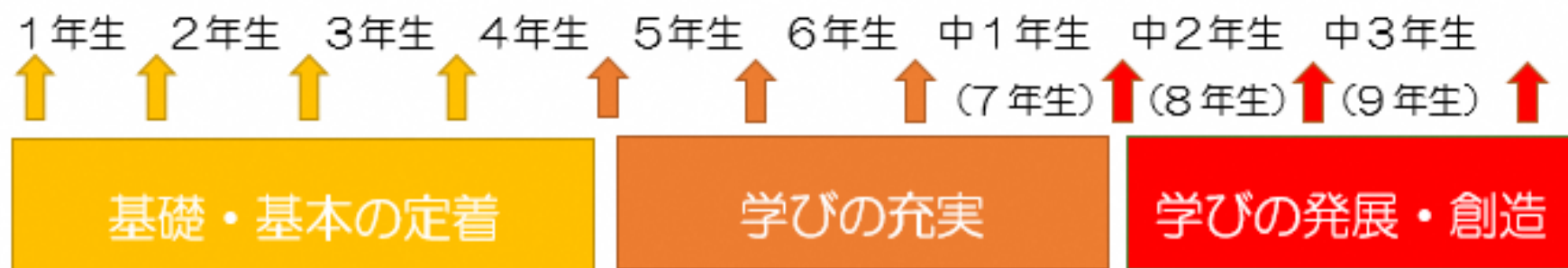
今後の展望・未来の可能性

ゆうべつ学園での取組より(地域の方と開設準備委員会で協議した内容)

- ・校名(子どもたち・地域のアンケート)
- ・校章(子どもたちの図案)
- ・校歌
- ・教育理念
- ・9年間の子どもの像
- ・制服・ジャージ(子どもたち・保護者)
- ・開校の記念事業の企画・運営

今後の展望・未来の可能性

ゆうべつ学園での取組より(教育委員会と学校で策定した教育段階)



重点1

9年間の連続
した教育課程

重点2

教科担任制
(乗り入れ
授業)の実施

重点3

6歳から15
歳までの異
年齢の交流

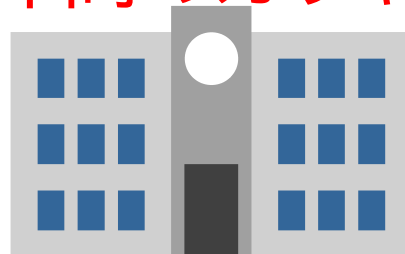
重点4

発達段階に
応じたきめ
細かい指導

(教育委員会と学校で作成した算数・数学のカリキュラム)

今後の展望・未来の可能性

新しいタイプの学校 9年間のカリキュラム



義務教育学校

6年間のカリキュラム



小学校

3年間のカリキュラム



中学校

新しいタイプの学校だからこそ

- ・15歳の子ども像
- ・子ども視点
- ・新たな教育活動の発想
- ・小中連携・小中一貫校の新たな学校文化の想像

学校名

- ・美幌町立〇〇学園
- ・美幌町立〇〇学校
- ・美幌町立〇〇義務教育学校
- ・美幌町立〇〇小中学校

など

小中一貫教育で大切な5つの視点

視点1 目標をつなぐ

児童・生徒の状況の共通理解した上で、保護者、地域と共に「目指す子ども像」を設定し、小中一貫教育、各校のグランドデザイン(学校経営方針)を作成する。

視点2 学びをつなぐ

9年間を通じた教育課程の編成や各学年、発達段階に応じた指導方法の工夫改善を行い、学びにおいて学習指導要領に示されて資質・能力の育成、「目指す子ども像」の達成を目指す。また、9年間を通じた「学習規律」「家庭学習」等を設定し、主体的に学ぶ学習習慣を育む。

今後の展望・未来の可能性

視点3 子どもたちの心をつなぐ

異学年交流・異学年活動を通して小中学校間で多様な交流する機会を設けることにより、子どもたちが安心して学べる環境を設定する。

視点4 教職員をつなぐ

9年間を見通した指導方法や行事の改善に向けて定期的に協議の場を設定して、教職員間の連携、協働を図る。

例 小中合同研修会、各校の校内研修に相互に参加 生徒指導交流 特別支援交流など

視点5 家庭・地域との絆をつなぐ

PTA組織、学校運営協議会、地域ボランティアなどを積極的に活用し、地域と共にある学校づくりを目指し、家庭、地域との連携を一層推進する。

今後の展望・未来の可能性

新たな学校文化の創造

○それぞれの学校文化(小・中学校)を生かして新しい学校文化の創造すること

○学校を核としてどんな美幌町にしたいか

○学校、地域、行政で「やってみようか！」という新たな発想

$$\times 6 + 3 = 9$$

$$\bigcirc 6 \times 3 = 18$$

$$\odot 9 \times 9 = 81$$